

特定非営利活動法人 ピアソン会

第79号

2018. 3.31

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局

（事務局長 伊藤 悟）

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel: 0157-31-1215

ピアソン記念館内

AM.9:30 ~ PM.4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

エリザベス市 & 北見市 姉妹都市提携50周年記念

来年、姉妹都市50周年記念を迎える北見市とエリザベス市は、ピアソン宣教師がこの北見で15年間、人々の心の支えとなり街の発展に尽力された歴史を元に、ピアソン邸を記念館として保存を決定した1969（昭和44）年に締結されました。エリザベス市では、ピアソン宣教師をどのように評価しているのか、4年前北見市訪問団が歓迎のメッセージを受けた挨拶を是非お読み下さい。

歓迎スピーチ

「エリザベスの子供たち」

エリザベス第一長老教会牧師

ロバート・ヒッグス

翻訳：唯野 則幸

親愛なる北見エリザベス訪問団の皆様、主催者、来賓の方々、そして我が同胞エリザベスの皆さん、地区長老派、エリザベス市長老派教会、並びに教会員を代表しご挨拶申し上げます。今夕、私が心にとめている2つのトピックにつきましてご出席の皆様と分かち合いたい、ここにお祝いできますことを光栄に思います。2つのトピックス、一つは、自ら慣れ親しんだ故郷と家族を離れ長い旅をへて異なる文化、習慣の中で生きた人物に

ついて、もう一つは先の人物同様の皆様、それぞれの安住の地、文化や生活習慣、故郷を離れ長い旅をへて新たな文化を築いてきた人々の350年の旅路についてであります。その人物とはもちろん、エリザベスが生んだジョージ・ピアソン牧師であり、その人々とはもちろん私たち、過去から現在までエリザベスに生きる私たちエリザベス市民のことであります。ピアソン牧師も私たちエリザベス市民も、ともにエリザベスの子供たち

であり、私たち自身がエリザベス(Home)を体現しているのです。ピアソン牧師の足跡をともにたどってみましょう。ジョージ・ピアソンが妻アイダと共に暮らした北見の元居宅は夫妻が北見地方に残した多大な業績の史料とともに現在は北海道遺産として登録され、全国的にも貴重な歴史的建造物として保存されています。ジョージ・ピアソンはエリザベスに生まれ育ち、当時は北大通りにあったウエストミンスター長老教会に通いました。エリザベスで開学した

【写真右】 歓迎のメッセージを語るロバート・ヒッグス牧師。右側に通訳する唯野則幸氏。左に吉田理事長。



現プリンストン大学に在学、卒業後海外伝道の日本派遣宣教師に任命され1888年故郷エリザベスを離れ日本に旅立ちました。東京で英語や聖書を教える傍ら日本語を学び、その後（北海道在住の）1895年、米聖公会の日本派遣宣教師アイダ・ゲップと結婚、語学指導や刑務所での伝道活動などを経て1914年野付牛（現北見市）に居を構え、そこを拠点に精力的に伝道活動を進めました。夫妻は女性や少女の地位向上のために尽力し、遊郭設置反対運動をリードしました。エリザベスの申し子ジョージ・ピアソンはこのようなことから北見の人々に深く愛され、ピアソン牧師の意志と功績は今日に至るまで深く人々の心に刻まれているのです。ピアソン夫妻の暮らした住居は「ピアソン記念館」として今も人々に愛され、訪れる人のためにそのドアを開いています。《church is still operating》ピアソン牧師の伝道の意志は北見教会で守られています。

ピアソン牧師が北見の人々の心に蒔いた種は長い年月を経て国文化、言葉や習慣の境界を超えて、今度は北見から彼の故郷エリザベスへと届き、1969年エリザベス、北見両市の姉妹都市提携へとつながり花を咲かせました。そうです、このようにして今夕両市の

市民、私たちがここエリザベスの地で一緒に姉妹都市提携45周年を祝えることとなったのです。

素晴らしいことではありませんか、一人の人生が我々にこのように大きな影響を与えたのです。時に私たちは、自分の日々の行動にどんな意味があるのかと自身に問うことがあります。人によっては仕事や家族の中で自分の役割にどんな価値があるのかと疑問に思うこともあります。125年前にエリザベスを離れたジョージ・ピアソンの決断、そして未知の土地に出向いて活動するという勇気が私たちにもたらした恩恵に感謝し、ともにピアソン牧師を想う時を持つています。ピアソンの故郷、エリザベスに住む人々と彼が伝道活動に尽くした北見の人々が長い年月を経てこのように結ばれるとは彼自身は想像だにできなかったことでしょう、もし彼がこの絆を知ったなら、彼が心から喜んでくれることはまちがいないと思います。

ピアソン牧師を通じて私たちが学んだことはシンプルです。「私たち一人一人の言葉や行動が周囲の人々にどのような影響を与えるかは誰にもわからない」ということです。私たちは種まき人です、日々言葉や行いを通じて種を蒔いているのです。自分の仕事や人生に価値がないなどと思いきまなくて

ください。今日、あなたが誰かにかけた言葉や行動があなたの知らないところで、思いもかけない形で誰かの心にふれる・通じたかもしれない、いえ、通じているのです。今夕私たちは国や言葉や文化、習慣を超えた多様な人々がここに交わり、私たちがともに分かち合い共感できることを祝しています。エリザベスの申し子、ジョージ・ピアソン、ありがとう！

私は今夕もう一つ皆さんと共にお祝いしたいことがあります、今年2014年はエリザベス市、そしてニュージャーシー州開基350年にあたります。多くのエリザベス市民、そして大半のニュージャーシー州民も知らないことです、1664年イングラント人ジョン・オグデン率いる50名の植民者とその家族が現在、エリザベス第一長老教会が在る場所、ユニオン郡裁判所の隣に会議場を建てたのです。エリザベスが最初の州都となった所以です。初代州知事カートレットが執務し、州議会在この場所で開かれました。このエリザベスの地を中心にニュージャーシー州のすべての市町村や郡が組織され、エリザベスを出発点として何千人もの入植者たちが新世界での開拓、あらたな生活の

エリザベスは、ニュージャーシー

350年間にわたり国、州、そして産業の発展に大きな貢献を果たし、現在も産業発展のリーダー的役割を担っています。また、あまり知られていないことですが、アメリカ独立戦争においてエリザベス地域は重要な役割を果たしました。スタテン島からニュージャーシー支配のチャンスを狙っていたイギリス軍の侵攻を対岸から7年間にわたって防いだこと、独立戦争での激しいイギリス軍との戦闘がこの地域に残した傷跡、そして自由と独立のために危険を顧みず自らの農場や家にとどまった当時の住人たちの勇気……エリザベスには今もアメリカ独立戦争の史跡や記念碑が数多く残されています。私たちのエリザベスは昔も今もニュージャーシーが大切にして

いる建州の精神である「自由」、「革新」、そして「多様性」を体現する町なのです。

(略)

今夕我々がここに集った理由、我々の親愛なる友人、北見の皆さんと我々がここに在る理由、それは両市、両市民が互いに助け合い、互いに学びあうことで我々の愛するエリザベス市と北見市は一緒にもっと良い町にしていくことができるところからであります。今夕ここに集った我々全員がエリザベスの子

供たちであります。エリザベスと北見の提携45周年を祝い、私たちの絆を祝い、我々の350年にわたる自由、革新、多様性をともに祝いましょう。

北見からお越しいただいた友人の皆さんに感謝、ジョージ・ピアソン牧師に感謝、わが同胞、エリザベス市民の皆さんに感謝の意を表して私の結びの言葉といたします。 Good Evening! (元)

このように、130年前に故郷エリザベスを20代で旅立ったピアソン氏が、遠いアジアの異国の土地で、多くの人々のために尽くした一生を、エリザベス市の誇りとして評価し、人生の旅の最終の地に残したピアソン邸とピアソン氏の思い出を大切に保存する北見市民に対して、最大の敬意を表しています。そのような両市が姉妹都市提携50周年を迎えようとしているのです。

両市民が形式的に交流する時代から、若い人々も積極的に両市の結びつきを理解し、今後両市民のためになる交流が生まれることをピアソン氏は望んでいるような気がします。来年はピアソン氏没後80年という年でもあります。素晴らしい交流ができるよう、皆

ピアソン会「総会」の開催案内

- ◎ 開催日時 : 2018年5月26日(土) 午後4時30分
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館内 北見市幸町7丁目4番28号
- ◎ 参加資格 : 運営会員・賛助会員・団体会員・その他
- ◎ 総会内容 : 2017年度事業・決算報告、2018年度事業・予算(案)、
- ◎ その他 : 総会終了後、希望者による懇親会を予定。(オホーツクビール園/参加費3,000円)

※会員へは後日総会参加案内ハガキを送付いたします。

素敵な来館者たち!

冬季期間は、団体の来館者は少ないのですが、3月6日に陸別中学校の1年生14名と先生3名が来館されました。

関寛齋の記念館がある町からの来館者でしたので、ピアソン宣教師と関寛齋の約110年前の交流について、ピアソン資料をもとに説明しました。



写真／真剣に話を聞く生徒たち。

※資料 (JOTTINGS FROM HOKKAIDO. From Letters from George P. Pierson.)
『Japan Evangelist Vol. LXVI No. 8 August, 1909 : p. 308 - p. 312』より。 北原俊之ノ訳
(1909年6月24日の記録を一部抜粋)

森林を抜けたあととは、馬が放牧されていたり牛が草を食んでいる丘陵地帯を通る曲がりくねった道を進み、十勝國の幹線道路に達した。この道の合流地点に、札幌農学校の卒業生であり、黒木典獄の義理の息子である関(寛齋)の息子、又一(か)氏が住んでおり、彼の牧場はいくつもの山を範囲とする広大なものであった。このあたりでの新鉄路建設作業がかなり活発であり、北海道の中では、室蘭を除けば、最も活気のある場所であるとの話であった。関氏の父親(関寛齋)は、医者であり80歳を越える人であるが、有名人である。冬でも夏でも、彼は毎日、川で行水をする。一年のうちかなりの期間が凍結している川なので、氷を割って行水を行うのである。鉄道建設の労働者が「かつけ」を煩った時には、この良きサマリア人「関寛齋」は、わらじを履いて往診にでかけ、治療費はとらないのである。彼は、洗礼を受けたクリスチャンではないが、旧約聖書を取り出して、アブラハムの話を引用して、「これが私と同じであり、神が新しい共同体を作るようにと私をこの場所まで導いてくれて、

その共同体が動き出したら、私は、また別の場所に行くつもりである。」と語っていた。彼は、ほんとうに北海道の開拓精神を持ち合わせた人物である。

この記録文は、ピアソン宣教師が明治42年6月に徒歩で名寄から興部、紋別、湧別、学田、野付牛、北光社、陸別、本別、池田を宣教師した記録からの抜粋です。

ピアソン宣教師は、旅の途中で出逢う素晴らしい人々には尊敬の念を持って接し、その事をしっかりと記録に留めておりました。

陸別開拓の功労者関寛齋と、ピアソン宣教師の出会いの記録。新たな発見です。

スポンサー募集!

今後もピアソン便りの隔月刊発行を継続するため、協力スポンサーを募集致します。年間1万円の協力で、会報に左図スペースでの広告を毎回掲載させて頂きます。スペース×6回となりまして、スペースを2倍とした場合は年3回となります。詳細については事務局まで。

広告見本

年6回掲載で、年額10,000円です。

30 ミリ
×
50 ミリ

啓「ピアソン学事始め」

⑥

この「ピアソン学事始め」は、15年前に街の情報紙に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

(6)ピアソン宣教師が学んだ
プリンストン大学と神学校①

ピアソン宣教師は、1878年にニュージャーシー大学(現在のプリンストン大学)に入學します。この大学は1746年に長老派教会によりエリザベスで誕生した大学であり、その後ニューアークを経て10年後プリンストンへと移ったのです。当時のアメリカの大学ではハーバード大学が一番古く、1636年の創立ですが、ピアソン氏の入學した大学もアメリカで4番目となる歴史ある大学です。「アイビリーグ」という名前を聞いたことがあると思います。が、東海岸側にある歴史のある8大学がアイビー(植物の「ツタ」と言われる所以は、このプリンストン大学が最初に校舎にツタを這わせた事からで、アイビリーグという名の発祥の大学ともいえます。

ピアソン宣教師は、1878年にニュージャーシー大学(現在のプリンストン大学)に入學します。この大学は1746年に長老派教会によりエリザベスで誕生した大学であり、その後ニューアークを経て10年後プリンストンへと移ったのです。当時のアメリカの大学ではハーバード大学が一番古く、1636年の創立ですが、ピアソン氏の入學した大学もアメリカで4番目となる歴史ある大学です。「アイビリーグ」という名前を聞いたことがあると思います。が、東海岸側にある歴史のある8大学がアイビー(植物の「ツタ」と言われる所以は、このプリンストン大学が最初に校舎にツタを這わせた事からで、アイビリーグという名の発祥の大学ともいえます。

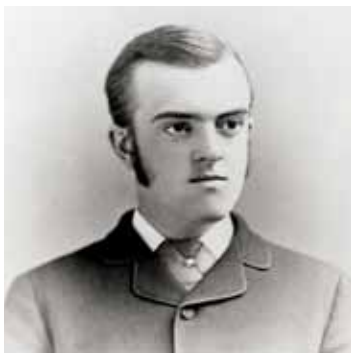
ピアソン宣教師は、1878年にニュージャーシー大学(現在のプリンストン大学)に入學します。この大学は1746年に長老派教会によりエリザベスで誕生した大学であり、その後ニューアークを経て10年後プリンストンへと移ったのです。当時のアメリカの大学ではハーバード大学が一番古く、1636年の創立ですが、ピアソン氏の入學した大学もアメリカで4番目となる歴史ある大学です。「アイビリーグ」という名前を聞いたことがあると思います。が、東海岸側にある歴史のある8大学がアイビー(植物の「ツタ」と言われる所以は、このプリンストン大学が最初に校舎にツタを這わせた事からで、アイビリーグという名の発祥の大学ともいえます。

ピアソン会理事 伊藤 悟

年にはプリンストン神学校に入學し、3年間宣教師になるための勉強を続けます。

2002年12月に、ピアソン宣教師の若い時期の資料を捜す目的でこのプリンストン大学を訪問しました。それは絵のように綺麗なキャンパスでした。町そのものが大学という感じで、治安は日本より良いという事です。大学の敷地は3キロ平方メートルで、その中に約18の専門図書館等が配置され五百万冊の蔵書、原稿や資料類が五百万点、マイクロフィルム二百万点を収蔵しているとのことでした。

(つづく)



写真右／ピアソン氏の大学生時代の写真。現在でもプリンストン大学にはピアソン氏の資料がファイリングされ、直筆の資料や写真が保存されています。

「ニュージーランドからの便り」第12回

〜ピアノン会顧問 グラハム・ハード氏〜



*2018.2.18

◆ニュージーランドの今年の夏はこのほか暑い天候が続いています。国内の何カ所かでは洪水を伴う嵐があり、特に海岸地帯ではスーパーームの引き起こす大潮と重なった嵐でした。また別の嵐では、サモアやトンガに大きな被害をもたらしたサイクロンギーターの余波が数日以内にニュージーランドの中央部を襲うと予報が出ています。

◆今日は暑く晴天です。ワンガマイのファームコテージに来ています。先週水曜日(2/14)にファングパラオアから姉と一緒にここへ来て、翌日ウエリントンまで連れていきました。姉は娘と二人の孫息子たちと過ごしています。私もみんなに会うのは嬉しいことでしたが、大都会からここへ戻れて嬉しいのです。

◆果樹園の果実は今年とてもいい具合です。リンゴの木々には実

がたくさんなっています。収穫までにはまだ1カ月くらいかかるでしょう。以前に仕掛けた虫除けがいい具合でダメージが減っています。西洋スモモは豊作で思った通りの収穫ができます。とろ火で煮込んで(ステュー)、ミューズリ(シリアル)での朝食はとても嬉しいもので、おすそ分けもしています。水曜日(2/21)に北へ帰る前に全部収穫します。姉と一緒に農場で新鮮なマッシュルームを見つけてきました。豊かな食卓の写真を撮ってくれたので送ります。◆下草刈りなどしています。暑くて長時間はできません。「春の小川」や「浜千鳥」、「浜辺の歌」などの気に入りの伝統的な歌から離れて、都

山流本曲「八千代」や「朝の海」と同様に「初音」や「そよ風」のような長い作品を練習しています。漢字の練習と学びも続けています。今朝の語彙の中には**繁茂、花茎、切迫、更迭、官邸**があり、昨日は**肩書、脂肪、肯定、苗床、若盛り**がありました。

◆昨日はワンガマイ河畔土曜朝市へ行きました。込み合っていて、普段よりも多くの売店が出て地域の生産物や手工芸品などを売っていました。スイートコーンを買

ました。中古本の掘出し物も見つけました。マウントエグモント国立公園へのイラスト入りガイドでした。晴れた日には、この部屋から西方の視界にタラナキ山(エグモント山)のシルエットが見えます。◆北見の親しい方々によろしく。
*2018.2.22



写真右/北見農園での豊かなディナー。(お姉さんが撮りました)



写真上/ワンガマイの北見農園。

柵の板には30年以上前に用意した北見近郊の板に筆で書いた看板です。

北見農園(右) Kitami Noen(左)

あちこちは大変だったようです。南島の北部豪雨は大きな地滑りを起こし、ゴールデンベイ地域への唯一の交通手段タカカヒルロードを遮断してしまいました。住民や観光客は足止めで、生活物資は海路に頼っています。◆中央部山地は雲の中でしたが北へのドライブは快適でした。ここへ戻る前に、弟と食事をするためオークランドに寄りました。姉も、ウエリントンから空路無事に戻りました。前日には何便かが運休でしたが。

◆ゴシックの漢字は、ハードさんが書いた日本語です。

編集後記

雪がどんどん溶けてゆきます。ピアノン記念館恒例の啓蟄の季節となりました。105年の歴史の重みか、この時期になりますと開館の前のお掃除で必ず数匹のワラジ虫を発見します。それを捕獲し外の雨水溝に入れてやります。床下の土の中から春の兆しを感じて出てくるのでしょうか。

いよいよ新年度となります。来年(2019)は、ピアノン宣教師の故郷のエリザベス市と姉妹都市提携50年の記念の年となります。北見市では実行委員会を立ち上げて実りのある行事をできるように検討を始めていますので期待したいところです。

ピアノン会新年度の総会を5月26日土曜日に計画しています。総会後には恒例の交流会も計画する予定です。ぜひご参加ください。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟